

弁護士モニター受講者アンケート自由回答（抜粋）

Q1 履修した授業に対する全般的な感想についてお聞かせください。授業に参加して得たものがあればそれも含めて教えてください。

-複数の講師が担当する授業で、異なる観点から人権分野に関するアプローチの説明があり非常に魅力的な授業でした。特に外部の講師の方のクラスは興味深く拝聴しました。

-想像以上に留学生の受講生が多く、いい意味で海外大学の授業を受けているようで想像を裏切られました。

-英語でのディスカッションの機会もあり、高い語学力が求められると感じました。

-英文契約書を毎週読んで英語だけの授業に出るということ自体が、これまで国際案件を取り組んでこなかった日本弁護士にとっては非常に高いハードルでした(システム上に予習用ドキュメントが3日~前日に上がったりすることもあることがあって間に合わないこともありましたが、授業内というよりも毎週出席しなければならないという状態自体が、日頃の英語ないしInternational Agreement分野の取り組みにとってスキルの向上には大変効果がありました。

-普段の業務で扱うことの少ない種類の契約書(M&A等)を含め、経験豊富な実務家から直接講義を受けることができ大変勉強になりました。授業に参加して得られたこととしては、どのような考慮要素から各条項を修正しているのか、どのような方法で参考例を集めているのか等の思考過程を学ぶことができたことが挙げられます。また、予想以上に多くの留学生が同じ授業を履修しており、大変良い刺激になりました。

-留学生とともに実践的な授業に参加できたのは刺激的な体験でした。やはり英語による法知識を持つということの重要性を再認識しました。

Q2 履修した授業とご自身の業務との関連性について教えてください。

- 刑事弁護を取り扱っており、人権分野の授業とは親和性があった。
- 本授業を取っていたおかげで基本的な知識や長い英文契約書にたいする苦手意識(読み方やレビューの仕方など)が軽減されました。
- 英文契約書のチェック業務を担当しているため、本授業の内容と直接的に関わりがあります。
- 直接的な関連性はありませんが、紛争解決やリスク管理に携わる上で、接点が多数ありました。

Q3 リカレントプログラムについて、長所と考えられる点、または、改善すべきとお考えの点についてお聞かせください。

■長所と考えられる点

- 興味関心のあるテーマを自身で選択的に選び履修できる点。
- ゲスト講師など通常業務をしているだけでは話を聞けない方のクラスを聞ける点。
- 移籍を予定している場合や、留学に行かれる予定の場合、フルタイムでなくても全て英語の環境で法学の講義が受けられるのは非常に貴重な機会だと思います。
- 普段の業務で触れる機会の少ない分野について実務家から講義を受けられる点かと思います。

■改善すべきとお考えの点

- ポータルサイトを使う機会が少なく、クラスに関する連絡などを見落としがちだったこと
- リカレントプログラムのメリット・意義が知られていないように思われる。
- 平日の午前(1限)などに出席するのはスケジュール的に困難なことが多いと思います。もし土曜日や平日夜のオンライン(ZOOM)授業などがあれば通常の執務をしている方も受講しやすいと思いました。予習課題はより早期にあがっていただたらもう少し消化できたかと思いました。
- 授業を日本の法曹養成課程の院生、LLMの留学生、リカレントの実務法曹が一堂に会して授業を受けるならば、大きな相互作用を期待できるかと思います。